

## これまで(2009 年度)の活動状況

### ●300 家族にマラリア予防の蚊帳を届けることができました！

「(1)健康を維持するための活動」として、元子ども兵及び紛争被害者にマラリア予防の啓発活動と合わせて蚊帳を届けることができました。2009 年度は、5 歳未満の子どもを抱えている家庭(主に性的暴力を受けた女性)を優先的に 300 家族へ蚊帳の配布を行いました。



### ●自給食料を確保することが出来ました！



「(2) 自給食料を確保するための活動」として、対象地域 12 ヶ村の相互扶助グループが農作物の栽培に取り組み、すべてのグループが、自給に必要な食料を生産することができました。今年度は現金収入の為の余剰作物までは生産できなかったものの、主食となる穀物(トウモロコシ)やイモ類(キャッサバ)、豆、野菜(たまねぎ、キャベツ、にんじん)など様々な作物を収穫することができました。

また、指導員が有機堆肥の利用方法などの指導を行い、農薬や化学肥料などは一切使用せずに栽培し、収穫物は相互のニーズや栄養バランスを考慮してグループ間での交換も行われました。

また、魚の養殖用の母体となる「ため池」が完成し、稚魚 1,280 匹を放流しました。同時に、4ヶ村(4グループ)がそれぞれの村に母体池で繁殖した稚魚を放流するための、ため池を完成させることができました。

ため池は大型の機械などは使用せず、元子ども兵らがショベルなど簡易用具を用いて整備しました。来年には、これらのため池に、母体池で育った稚魚が放流される予定です。



●元子ども兵及び紛争被害者が職業技術を身につけました！



「(3) 収入源を確保するための活動」として、6ヶ月間の職業訓練を行い、元子ども兵15名が家具製作のための基礎的な木工大工技術を習得し、性的暴力を受けた女性被害者11名が洋裁技術を身につけることができました。また、フェアトレード商品として手工芸品(ペーパービーズ)製作の指導員を育成するために、パートナー団体の職員に対して研修を行い、育成された指導員が20名の受益者(性的暴力を受けた女性)に対してペーパービーズ製作のための技術訓練を実施しました。





「(4) 心理社会的な安定を促す活動」として、元子ども兵や性的暴力を受けた女性たちが安心して悩みを打ち明けたり、相談できるカウンセラーがグローブハウスⅢに 着任しました。カウンセラーは元々パートナー団体(GRAM)の支援を受けて自立した女性で、彼女自身も過去に性的暴力の被害を受けた経験があります。そうした経験から自らがカウンセラーとして同じ境遇にあった女性をサポートしたいという思いを持ち、その後、カウンセリングの勉強をして他の援助機関が提供するカウンセラー養成研修を修了してきた女性です。2009年度は、週に平均10数名の受益者が彼女のもとに相談に訪れました。また、村々を訪問した際には、相互扶助グループのメンバーからも様々な相談にのっています。

●158名の孤児の子どもたちに1年間の初等教育を行うことができました！

「(5) 子どもの権利を守るための活動」として、紛争下で教育の機会を奪われていた孤児158名に1年間の基礎教育(インフォーマル教育)を行うことができました。現在、政府が子どもの教育に使う予算はほとんどゼロに等しい状態で、学校運営にかかる費用はほぼすべて保護者が負担しなければならず、外部からの援助が無い限り、貧困層の家庭では子どもを学校に通わせることができません。また、教師の給与もしばしば支払われておらず、子どもに対する学校数も十分ではありません。2009年度は、初等教育を全く受けた経験の無い孤児の子どもたちに対して、村長や村民の協力の下、インフォーマル教育の教室を開講して、月曜～金曜の平日(半日間)、識字教育や算数などの基礎教育、レクリエーション(体育)のクラスを提供しました。今後、子どもの教育水準が一定のレベルに達すると、公立の小学校に編入することも可能なため、教育環境が整備される中で、将来的にはこの子ども達が普通の小学校で勉強することができるよう支援を充実させていく予定です。

